

## 循環型環境社会を目指し、 全部再資源化の処理能力向上を図る！



### 飛田テック株式会社

新潟オートリサイクルセンター下越

◎ 新潟県新潟市東区下木戸560-2

☎ 025-274-1516

🌐 <http://hidatec.co.jp/>

■ 建築材料、鋳物・金属材料等卸売業



会社WEBサイト

#### 私たちについて

#### 使用済み自動車の ほぼすべてをリサイクル

1953年に鉄スクラップ業として創業。現在は、新潟県内外において建物解体時に発生する鋼材や鉄くず、金属加工業などから排出される鉄・非鉄金属などを購入し加工後、国内製鋼メーカーへの納入や海外輸出などを行う。2005年に使用済み自動車の再資源化を目的とした「自動車リサイクル法」の施行が決まると自動車リサイクル業に参入。使用済み自動車を引取、フロン回収、リサイクル部品の生産、エアバッグの展開、プレスし製鋼原料として電炉メーカーに納入するといった一気通貫の自動車リサイクル工程を確立。使用済み自動車のほぼ100%のリサイクルを行っている。



#### きっかけ

#### シュレッダーダストを 排出しない取り組み

通常、自動車リサイクル業者の多くは有用な部品や素材を回収した後、プレスしてシュレッダーで裁断。発生したシュレッダーダストは製紙工場やセメント工場などで燃やすか埋め立て処分される。一方飛田テックは電炉メーカーに納入し、製鋼原料へと変容させている。しかし「全部再資源化」は国内の自動車リサイクル全体の



数%。その理由はプレス中の銅の含有量を抑えることが難しいからだ。銅の含有量が多いと製鋼品質の低下につながるのだが、この作業は工程数が多く、コストもかかる。それでも飛田テックは環境負荷の観点から「全部再資源化」に取り組んでいる。常に全国トップクラスの納入量を誇り、新潟県内で約半数近くを処理。しかし、既存設備では生産性の向上が見込めず頭打ちとなっていた。



#### 取組の内容

#### 時間短縮と積込み・運搬時の 効率向上を目指して

当初プレス機を導入したのは「自動車リサイクル法」が施行される前年の2004年。

プレスするスピードが落ち1台に約6分かかり、他工程の作業員は時間を持て余すことに。また、プレスの圧縮力が弱まりプレスサイズが大きくなってしまい、保管スペースを取るようになった。さらに、プレスサイズが大きいため積み込み時の磁石の吸着力が悪化、積込時間の増大、安全面の懸念も出てきた。そこで、ものづくり補助金を活用し、新たな自動車プレス機を導入。以前のプレス機に比べポンプを1基追加、作動油を冷却する仕様にし、圧縮力強化・圧縮時間の短縮を図った。結果、プレス加工時間が1台当たり約3分に短縮、作業員の待ち時間を削減。プレスサイズも小さくなり密度が上がったことによる省スペース化、積込時間の短縮、安全性が向上した。



#### その後の展開

#### 自動車リサイクルが もっと身近な存在になるために

素材をリサイクルする他に自動車リサイクル事業にはもう一つ重要な役割がある。それは中古タイヤや中古部品などのリサイクル部品の普及促進である。飛田テックはリサイクル部品を全国へ販売するほか海外輸出にも力を入れており、今後さらにリサイクル部品の啓蒙・認知度アップを図り販売に力を入れていきたいという。リサイクル部品はまだまだ認知度が低くうまく活用されていないのが現実である。脱炭素社会の実現を目指すカーボンニュートラルやSDGsなど環境悪化を防ぐことが課題であるが、リサイクル部品の使用は直接的なCO2削減に効果があるため身近な環境保全活動ともいえる。そして何よりユーザーにとって新品に比べ安価で購入できることが最大のメリット。今後はさらに環境にもお財布にも優しいリサイクル部品の普及を加速させていきたい。



#### message

自動車リサイクル部品は基準に基づき、厳しいチェックのもと生産されており、品質が保たれています。車が故障したら、中古品を使う。そんな選択肢が一般的になってくれたら嬉しいです。

自動車リサイクル事業部 部長  
(兼)新潟オートリサイクルセンター下越 センター長 小宮 静納氏